



愛川ふれあいの村 今月の風景

## 2019年 4月 自然のたより

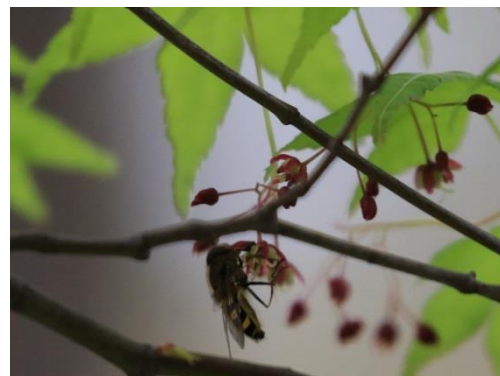
3月に続き、4月も月を通して桜を楽しむことができました。ソメイヨシノの満開から、第2駐車場上の八重のしだれ桜、桜の塩漬の材料になる八重桜のカンザンが続々と満開を迎え、村内を白やピンクに彩りました。また、鳥や動物たちもこの自然の変化に誘われてか活発に動き始め、中睦ましいキセキレイのカップルや、炊事場の桜の木に愛らしい姿を現したニホンリスに出会うことができました。(加藤)



第2駐車場のシダレザクラ



ニホンリス



モミジの花



フデリンドウ



ヒナスミレ



ハルユキノシタ



ヒオドシチョウ



キセキレイのカップル



メギ



ヒトリシズカ



渡り前のアカハラ



コツバメ



ツバ 牡丹のつぼみ



ランヨウアオイ



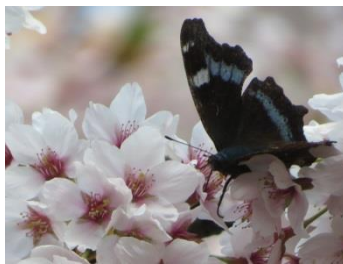
カンザン (関山)

## トピックス ★多様性★

桜を眺めて春を感じる方も多いでしょう。ところで、桜は何種類あるか知っていますか。野生種で10種、園芸種で500種とも言われています。そんなにたくさんの種がなくても、きれいな桜が1種（例えばソメイヨシノ）だけあればいいと思いませんか。しかし、それでは鳥や虫が困ってしまいます。数種の桜が時期をずらして咲くから、生き物は餌に困らないのです。桜を例に話しましたが、他の生き物も同じです。いろんな生き物がそれぞれの時期に生活しているため、互いに関わり合えるのです。

「蚊やハエがいなくなればいい」と聞くことがありますが、これらを餌としている生き物はどうなるのでしょうか。私たちにとって蚊やハエは不快かもしれませんが、この地球上にいなくなっているいい生き物は存在するのでしょうか。

いろんな種がそれぞれの時期にでてくるから、そこに食物連鎖が生まれ、生き物（人も含む）の世界は成り立っているのです。生き物たちに私たちがいても安心だと思えるように、開発を繰り返して彼らのすみかを奪わないようにしたいものです。



花の蜜や花に来る虫を食べる生き物たち  
利用の方法はさまざま  
(石川)



▲センダイムシクイ

北の国から渡って来ていたツグミやジョウビタキなど冬鳥たちが旅立ち、南の国からツバメやキビタキなどの夏鳥が渡ってくる時期です。鳥たちが生息できる環境は、鳥たちの食べる虫たちも多く生息し、虫たちの食べる植物も多くあります。このように生物多様性に富んだ環境は、人間にとっても快適な環境と言えるでしょう。(吉田)

## 生き物 <sup>きじ</sup>★雉も鳴かずば…★

村で見ることのできる大型の鳥のひとつにキジがあります。雌は地味な色合いですが、雄は光沢のある深い緑色の胴体に柄付きの背中、顔は赤く、とても派手な姿をしています。

その姿を見かけることは少ないですが、春の繁殖期には鳴き声をよく耳にします。「ケーン、ケーン」と甲高く、とても目立つ声なので、「キジも鳴かずば撃たれまい（不用意な発言で自ら災いを招く）」ということわざも生まれました。(金山)



## 旬 ★ハリギリ（針桐）★

芽吹きの際は山菜の季節。そこからは春を感じ取ることができます。ふれあいの村の玄関わきにトゲのある大きな木があります。『ハリギリ』と言います。ウコギ科でタラノキやコシアブラと同様の山菜です。天狗の団扇のような形の葉で、若葉は天ぷら・お浸し等で美味しく食べることができます。(菅原)

※山菜を採る時の注意。  
必要以上に採るのをやめましょう。来年の楽しみのために、とっておきましょう。  
必ず、誰の土地かの確認をとりましょう。



## 来月の見どころ 愛鳥週間

愛鳥週間のある五月は、木々が新緑の萌木色から緑色に変わり、爽やかな風と共に小鳥たちのさえずりが聞こえてきます。ふれあいの村の野外集會場の辺りではキビタキの声だけでなく、その美しい姿も見かけることも出来ます。「シシシシー」とヤブサメの声は聴力の良い人には聞こえるらしい。「月日星（ツキヒホシ）、ホイホイホイ」とサンコウチヨウの声は自然散策路で聞こえることがあります。「チヨチヨビー」とセンダイムシクイの声が聞こえたら、しばらくその辺りでそっとしていると、その小さな姿に出合えるかもしれません。「チヨチヨビー」は「焼酎いっぱいぐい」と聞きなし、何度も聞いていると本当にそのように聞こえて来て面白いです。